

【石狩市】1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（令和3年1月）では、「令和の日本型学校教育」の姿を「全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現」としている。Society5.0時代の到来といった急激な社会的変化の中で、学校教育においては、子供一人一人が予測困難な社会で自らの力で自立的に生きて社会の形成に参画していく資質・能力を確実に育成する教育内容や方法が求められています。

市内の小中学校・義務教育学校は、GIGAスクール構想により整備した通信環境・コンピュータ（端末）を活用し、個別最適な学びや協働的な学びの実現に向けた取組を進めるとともに、教師による対面指導とオンライン教育を適切に組み合わせるなど、持続可能社会の創り手となることができるよう、その資質と能力を育成する学びを目指します。

2. GIGA 第1期の総括

令和2年度に市内の全小中義務教育学校における児童生徒に対し、1人1台端末の整備、および、全校内へ無線の通信ネットワーク環境を整備し、令和3年度より運用を開始。

令和3年度の夏休みと冬休みの長期休業時において、全児童生徒を対象に家庭への持ち帰り運用を試験的に開始し、令和4年度から現在にかけて、常時持ち帰りの運用を継続している。

GIGAスクール構想の実現に向けたこれらの整備や取組により、教職員、児童生徒にとって1人1台端末はいつでも・どこでも・自由に使える文房具のような存在となり、端末を使った自身やグループでの調べ学習による発表（プレゼン）や作品作り、学習支援アプリや協働学習支援アプリを活用した情報共有、AIドリルを活用した学習が日常的な光景となり、児童生徒の特性に合った活動が可能となることで、表現方法の幅も広がり授業も活発化してきている。

そのような中、課題としては「端末を活用することが目的となる授業となってしまう場合がある」こと、および「端末の故障・破損・ACアダプタの紛失による予備機不足」が挙げられる。

授業のあり方については、教職員向けの研修やICT支援員の巡回によりサポートで教職員に理解を深めてもらうことで解決を図り、予備機不足についてはGIGA第2期において十分な予備機を整備するとともに、端末の丁寧な取扱い方法を児童生徒に対して啓発していくこと、故障・破損、ACアダプタを紛失した場合の保護者負担については更なる検討をしていくこととする。

3. 1人1台端末の利活用方策

上記「1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿」「2. GIGA 第1期の総括」を踏まえ、以下の方策を講じる。

端末の利活用の前提として、GIGA第2期の端末の整備・更新により、児童生徒向けの1人1台端末環境を引き続き維持する。

(1) 1人1台端末の積極的な活用

- ICT活用に係る教職員の指導力を向上することができるよう、継続してICT支援員を配置し、市内小中義務教育学校への定期的な巡回支援や授業支援を実施する。
- クラウドで利用可能な授業支援システムを導入することで場所を選ばずに特別な支援を必要とする児童生徒の多様な学習機会（双方向授業）を確保し、協働学習ツールやAIドリル等の有効活用につなげる。

(2) 個別最適・協働的な学びの充実

- 児童生徒が自らの考えで、目的や場面に合わせてICTを使い分けて効果的に活用し、課題を発見・解決する力を育成します。
- 教員と児童生徒、児童生徒同士がやりとりをする場面において、ICTを積極的に活用し、協働的な学びを充実します。
- AIドリルを校内及び家庭学習での活動に継続して取り入れ、個別最適な学びを充実します。